

あゆみ

『一粒の麦』

理事長 森 公夫

本年四月、身に余る大役と感じつつ松田善衛先生の後を受け理事長に就任しました。よろしくお願いたします。



過日、あゆみ学園後援会により、松山教会のパイオルガンを使用したチャリティコンサートを開催していただきました。会場には、施設の日常活動などを知っていただくため、職員協力でパネルを展示しましたが、これを機にあらためて法人の歴史を振り返ってみたいと思います。

あゆみ学園は一九六〇年、特別な支援の必要な子どもたちへの理解や、行政からの援助がまだまだ乏しい時代に、当時八坂町にあった松山教会の青年によってその第一歩を踏み出しました。その後、松山市市坪町に場所を得て移転しましたが、公的補助を得られないことから経営は苦しく、園長でもあった松山教会の山下萬里牧師をはじめ、職員はたいへんなご苦労をされたそうです。

やがて、たくさんの方々の善意や保護者の方々のご支援により、社会福祉法人あゆみ学園が設立され、一九六九年四月、園児二十名職員八名の通園施設として新たな一歩を踏み出しました。

以来二十五年、地域の方々に支えられながら活動を続けてきましたが、一九九五年、松山市の中央公園計画に敷地の一部が組み込まれることにもない、現在地に広い敷地と立派な建物を与えられて移転することになりました。加えて七年前には成人の作業所も併設し、農作業や軽作業に取

り組むなど、合わせると四十名を越える職員とともに地域に奉仕させていただいています。

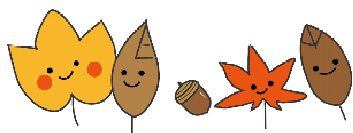
その昔、私は山下牧師から薄い羊皮で出来た一葉の葉をいただいたことがあります。そこには「一粒の麦」という文字が刻まれていました。

時かれた一粒の麦が、芽を出し穂を伸ばし、こうして実りの時を迎えるまでに、どれだけたくさんの方々に支えられたことでしょうか。それを思う時、ここに注がれる愛とみちびきのいかに大きいかを感じないではられません。

前述しましたように、あゆみ学園はキリスト教会の一隅から生まれました。当然の事ながらその事業運営の基本は「愛と奉仕の精神」にあります。

ここに、法人化前の古い写真の一枚を掲載させていただきます。粗末な木製テーブルの上にあるのはおやつと飲み物でしょうか。何はなくともこの写真の中には人の心の暖かさが写し込まれていることを感じます。

私も微力、職員も微力です。その小さく弱い力を、つなぎ、紡ぎ合わせながら、私たちもまたこの写真に負けないよう、「ぬくもりと感謝の中で日々の務めを果たすことが出来ますように」と願います。



社会福祉法人あゆみ学園

理念

当法人は、障がいのある子どもとその保護者を支援するため、日本基督教(キリスト)教団松山教会の青年によって始められた事業をその礎(いしずえ)とし、基督教の愛の精神に基づいた社会福祉事業を行い地域社会に貢献します。

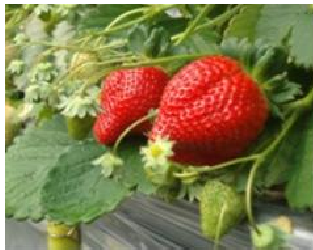
『あゆみ』

副理事長

山崎

順子

多くの人が住むこの地上で、人それぞれの歩みが、毎日繰り返されています。けれども誰一人として同じ「歩み」の人はいません。急いだり、休んだり、時には立ち止まったり、後退することさえもあります。歩む速度や、過程、目的は、みな違ってきます。SMAPが歌う「世界に一つだけの花」に次のような歌詞があります。



……そうさ僕らも世界に一つだけの花一人

ひとり違う種を持つ
その花を咲かせること
だけに一生懸命になれ
ばいい……

「あゆみ」に集う一
人ひとりが、そしてつな

がっている多くの人々が、自分にはかできない歩みを、たった一つの花を咲かせることに一生懸命に歩んでいくことができると、願います。

神さまは、きつとその道を備えてくださり、守り、支えていてくださることを信じて今日からもまた歩んでいきたいと思えます。



『感謝』

あゆみ学園

管理者

武智

一郎

何かと忙しく過ごしているうちに、また一年が過ぎようとしています。四月当初は、「どこからあんなパワーが出るのだろう」とあきれれるほど毎日泣き続けていた子どもたちも、今はその力を遊びや活動に遺憾なく発揮して笑顔で過ごしています。

この活発な子供たちと、それに負けず劣らず活

発な先生たちを見てみると、そのエネルギーに圧倒される思いがします。療育には当然のことながら知識や技術、経験なども必要ですが、やはり子供を本当に変えていくのはこのエネルギーなのだつくづく感じます。

大人も子どもも一緒になって互いにパワーを発散し、それを吸収し合う中で、子どもたちだけでなく先生方も、更に周囲の人までが力をもらう。そんな時間が今日も流れていきます。子供たちに感謝、先生方に感謝…です。



『自分らしい生活を願って』
多機能型事業所あゆみ

管理者 真鍋 孝夫

始めに、今、活用しているいちじく畑は、地元で深いご理解を頂いている地主の岡田様や松田前理事長、森理事長のご協力もあり、法人あゆみとして購入できました事をご報告します。

ところで、私は、障害者が真に生きていくためには、本人の努力は勿論、本人を取り巻く方々のご理解無くしてはあり得ない思いを大切にしてきました。現在、障害者の人権が尊重され、地域で

共生できる社会の実現を目指して各種の活動が展開されています。先日、県下のある地域で、福祉施設建設の強烈な



反対運動が起きました。県行政も各施設と連携し、

障害者を取り巻く環境が心通うものとなるよう多様な行事の取り組みを行っています。

これまでに就職した障害者の相談の中には、お金の管理を雇い主がしていることを不服とした訴えや職場での毎日のいじめに耐えられない相談。皆は休憩時間があるのに僕にはないとの訴え等々。共生社会と言っても現実には厳しく、社会の理解はこれで良いのかとの思いです。人として当たり前の自分らしい生活を送れるよう願うばかりです。

『変わらぬ願い、変わらぬ務め』
多機能型事業所あゆみ

管理者補佐 渡部 剛

かつて障害福祉行政に携わっていた若い頃、まだ福祉施設は貧弱で数も不足していました。が、国際障害者年のノーマライゼーションというスローガンの影響もあり、これからは在宅福祉を中心に障害者福祉を推進すると、どこへ行



っても聞かされたし、何を見てもそう書いてありました。

あれから三十年、今は福祉のレベルも向上して、施設も良く整備され、在宅施策も充実し、まさに今昔の感がありますが、しかし、変わらぬものがただ一つ。それは「親亡き後のこの子らを」という親の願いでしょう。

親代わりの（代われるものではないかもしれませんが）手厚い支援サービスの提供、それが障害福祉サービスに従事する者の願いであり、務めであることは変わらないと思います。



『今、子どものからだは危ない』

児童発達支援センター

児童発達管理責任者

中本 奈津子

最近の子どもたちのからだは、なんとなくだらだら感を感じます。いすに座った姿勢は背中が丸くなったり、肘をついていたたり、遊んでいても疲れやすくゴロゴロしていることも多いです。

「なぜ？」と考えた時に、生活が便利になったことを思うのですが、いかがでしょうか？車社会になり、アスファルトの道がほとんどです。歩く機会も少なくなりました。バリアフリーの社会になり、身体も脳もあまり考えなくてもよくなりました。生活道具も便利なものがたくさんありますね。便利さは時間の短縮にもなり、今の私たちの生活にはなくてはならないものですが、多少の不便さも必要なかもしれないな、と思います。

そこで、今年度からだ作りを考え、作業療法士の三澤先生からのアドバイスもあり、活動前に脳を目覚めさせるように、毎朝一曲の間のマラソン（夏の間は出来ませんでした）とラジオ体操、暖かい時期のはだし保育（そろそろ寒く

なりましたので上靴を履きますが）、散歩や園庭あそびの充実などに取り組んでいます。

マラソンとラジオ体操の成果？は運動会の準備体操とかけっこで披露できたかと思えます。はだし保育の中では、足の裏をしっかりと地につけ、重心を感じること、また識別力をつけ脳へ刺激を、そして足の指も使う事など意識してきました。散歩や園庭あそびは天気の良いときはしっかりと外気にあたり、からだを動かすこと、季節の変化も感じながら生活をしていくことを考えています。



これからも子どもたちのからだ作りに取り組みながら、集中して物事へかかわったり気持ちのコントロールにつなげていきたいと思えます。

『みんなのゴール』

児童発達支援事業どんぐり

児童指導員

白石 光

児童発達支援事業どんぐりは、下は未満児の子どもから上は年長児の子どもまで利用しています。そして、年齢が同じ子どもが集まってそれぞれに個性があって面白い場所です。まだまだ型にはまっていない自由な発想や気付きに「そういうことー」と驚かされることがあったり、その底なしの体力に「ちよつと待って〜！」と置いていかれたり、ちよつと不器用だけれど最後まで自分ですると意地を張るところが少し微笑ましくも遅しくも思えたりします。そのみんなは、どんぐりに来て同じ遊びをしてもそれぞれに違う様子を見せてくれます。コツを掴んですぐにできるようになる子どもや、繰り返しの練習でできるようになる子ども・・・その様子を見ているとみんなが同じ“ゴール”

を目指すのではなく、それぞれの“ゴール”を目指すことや、“ゴール”までの行き方にも寄り道があったり遠回りがあったりしても、それぞれのペースで進んでいくことが大切なのではないのかと感じさせられます。

私は児童発達支援事業どんぐりに変わってきて二年目になります。まだまだ力が及ばず四苦八苦している毎日ですが、いつも元気をくれるのは決まって子どもたちの元気な姿です。運動会で頑張って走っている姿、散歩中に見つけた虫や車に目をキラキラと輝かせている姿、園庭ですべり台や砂遊びを楽しんでいる姿など…思い出したらきりがありません。そんな元氣いっぱいみんながこれから、多くの友だちと一緒にいろいろなことを経験し、学び、楽しみながらたくさんの方を吸収し大きくなっていけることを願うと同時に、これからも応援していきたいです。



『あなたらしく』

あゆみ学園指定相談支援事業所

相談支援専門員

梶原 佳代

私が相談支援事業を担当して五年目になります。以前は児童発達支援センターあゆみ学園のクラス担任として、子どもたちと何して遊ぼうかな々と日々考えていました。

それが、五年前の四月から相談支援事業へ異動し、今度は乳幼児から高齢者まで発達に不安があったり、生活がしづらかったりする方々の生活全般の支援をさせていただくことになりました。今度はこの方が地域で暮らすためにはどうしたら生活しやすくなるのかなと考える日々が変わり、同じ法人内にながら当時は転職した気分でした。

そして平成二十四年の法律改正で、相談業務も整理され、それに伴い今年度四月からは、一年前と少し変わり、福祉サービスを利用される方々の計画を作成する業務に変わりました。

少しずつ変化している私の仕事ですが、クラス担任をしていた頃も、今の相談業務でも、関わらせていただいている利用者さん、子どもさん、保護者さんにはいつもこのことを聞いてい

ます。

「好きなことは何ですか？」

私の大好きなことばに『ダイエットする象なんていない。パンダらしく振る舞おうとしているパンダもいない。あなたはあなたのままがいい』ということがあります。

これからも、皆様が好きなることを楽しめるように、また、それぞれが持っている素敵な「あなたらしさ」をさらに輝かせた生活が送れるように、少しでもお力になれたらいいなと思っています。

『初めまして、くじらです』

相談支援事業所くじら

相談支援専門員

一宮 和美

「どうして、くじらっていつ名前なんですか？」今年度から相談支援専門員として仕事をさせていただく中で、いちばん多くもらった質問かもしれません。名前の由来はもちろん、玄関にあるくじらの絵です。通園バスにもくじらの絵があります。子どもたちにも親しみのあるくじら。その名前をもらった当事業所は、今年度から、あゆみ学園に仲間入りしました。

相談支援事業所くじらでは、福祉サービス利用に関する計画作成や情報提供、各関係機関の連絡調整を行っています。と、簡単に書いたものの、今年度から相談支援専門員となった私にとっては、福祉サービスの仕組みや概要、各関係機関の様子等々、これまで知らなかったことや新たに学ぶことが多く、勉強の日々です。その中で、本人が好きなことや得意なこと、願いは何か？ご家族の願いやイメージする生活はどのようなものか？という視点を持って、お話

を聞くように心がけています。子どもたちの強みを活かして、更に伸び伸びと楽しく生活できるように、お手伝いができればと思っています。実は最近、くじらのスタンプを見つけました。保護者の方々へのお手紙にさりげなく押しています。くじらスタンプがいろいろある所で見られるように、相談支援事業所くじらが、気軽に相談ができる身近な存在になれるように頑張っていきたいと思えますので、これからもよろしくお願いいたします。

『二度目の社会人』

多機能型事業所あゆみ 生活介護事業

生活支援員 細川 都司子

私があゆみに生活支援員と採用していただいたのは、丁度あゆみ作業所から多機能型事業所に移行して、事業内容が生活介護事業と就労支援B型事業に分かれた年でした。

しばらく社会人生活から遠ざかっていた私は、子供を抱えた共働きという状態で仕事を再開いたしました。当初は生活介護の事業自体が始まったところだったこともあり、生活訓練・自立訓練のメニューのどれをとっても慣れ

ない仕事が多かったです。でも、すぐに仕事にはやりがいを感じました。利用者の方の顔を思い浮かべながら、先輩の職員の指導を得て、創作活動・運動・音楽・社会体験、

或いは季節ごとの行事など、あれがいいかな、これはどうしようかな、苦心惨たんの日々でしたが、それでも利用者さんがそんな私に「細川さくん」と声をかけ笑顔で迎えてくれると疲れも悩みも吹っ飛ば気がしたからでした。

慣れない仕事の中で、自分を信頼して向けてくれる笑顔やふとした言葉はたくさんの力を与えてくださいました。今は、幾分支援業務にも慣れ、多少余裕をもって利用者さんと様々な活動を笑顔で行っております。私がこの仕事を続けられるのもたくさんの方々のご理解があってこそと感じております。そして、社会に復帰しているんな方に支えられて生きていること、その実感が私のものだけでなく、利用者の方々にこそ感じていただける場にあることがこの多機能型事業所の使命かな、と思いつつ



これからも仕事を続けていきたいと思ひます。
みなさんよろしくお願ひします。

『仲間と共に』

多機能型事業所あゆみ 就労継続支援B型事業

生活支援員 山下 たかみ

就労支援B型事業が始まって二年が経ちます。現在十六名の利用者さんと共に作業に取り組んでおります。支援内容として、農業、ジャム、受託軽作業、施設外での清掃作業に加え、生産物品の施設外販売を行っております。

社会に出て生活を行うための知識、働くための必要な知識を身に着けることを目標として利用者さんと共に日々取り組んでおります。みなさんと接する中で「仲間」の大切さについて考えさせられることが多々あります。例えば助け合いということに関しては、掃除や作業を行う際に自分だけではなく仲間の準備も自主的に行うことができるようになりました。仲間がいるからできること、支えあつことで頑張れること、成長できることがあり、そんな仲間がいるからこそ、楽しみながら日々通所してくださっているのかと感じております。「仲間」

という存在の大切さを利用者さんも含め自身も今まで以上に実感しております。

毎日、様々な作業を行っておりますが、息抜きを兼ね、月に一度みなさんと話し合つて社会体験を兼ねた活動を行っております。外出を行つたり、調理を行つたり、仲間同士でお互いの意見や予定などを尊重しあいながら活動内容も決定しております。いろいろな活動を通して支えあえる仲間と共に自信をもつて、仕事に活動に挑戦して欲しいと思つております。



その中に支援員も加わつて共に挑戦し、成長していけるように頑張りたいと思ひます。

父母の会 役員紹介



伊地知 愛美

今年度役員をさせていただいております。子供達の笑顔がたくさん見れる様に、お手伝いが出来ればと思ひます。よろしくお願ひします。

山内 正枝

早いもので役員の任期も残り数カ月となりました。他の役員の方や園の方々との交流の良い機会を頂けたと思ひます。三月まで精一杯務めてまいります。

俊野 愛里

役員の活動を通して、子供達の成長を見守るとともに、保護者の方々の繋がりを作り、親子で楽しい園生活を送るお手伝いができればと思ひます。

白石 彩

今年度会計をさせていただいております。至らないう所も多く迷惑をかける事もありますが、少しで

もお手伝い出来るよう頑張りたいと思います。

東倉 佳恵

今年度書記をさせていただいています。不器用な上に初めてのことはばかりで、至らない点も多いかと思いますが、頑張りますのでよろしく願います。

.....

家族会 役員紹介



吉村 泰美

昨年について役員をしております。他の役員さんの心強いサポートのお陰で、楽しく活動を行っています。よろしく願います。

池尻 泰美

昨年について役員をさせていただきました。皆様のご協力を頂きながら楽しく、少しでもお役に立てればと思っています。よろしく願います。

向井 恵子

役員になって、二度目の収穫祭です。みんなの力を集結して、頑張りますよー！

森田 静香

四年ぶりに二度目の役員をすることになりました

た。皆様のご協力を頂きながら、より充実した活動ができるよう頑張りたいと思っています。

池内 鈴

皆様のご協力を頂きながら、家族会の一員として活動したいと思っています。よろしくお願い致します。

首藤 ゆか

あゆみにお世話になって、七年が過ぎました。再び役員をさせていただきます。皆様のお役に立てるよう頑張ります。よろしく願います。

野村 りえ

子供が、あゆみに通所を初めて二度目の役員です。前回の経験を活かし、皆と協力して、保護者会の活動を頑張っていきたいと思っています。

お知らせ

平成二十四年度の苦情受付に関して
受付件数0件。処理件数0件でした。

.....

新任職員

保育士	仙波由里
事務員	西上晴香
	秦千里
	竹中奈
	松本岳

退職職員

事務長	池田美智子
児童指導員	能口愛香
	橋本沙紀
	米家絵利
保育士	菊地亮太
	樽川瞳
事務補助	池田美代子
運転手	浮田みどり
看護師	山田みどり
調理補助	隅田より子

(平成二十五年四月現在)

発行

〒790-0047 松山市余戸南6丁目6番9号
社会福祉法人あゆみ学園
 ayumi-g@bz01.plala.or.jp
 TEL 089-972-0999 Fax 089-972-3511

児童発達支援センター あゆみ学園
 児童発達支援事業 どんぐり
 指定相談支援事業所 くじら
 TEL・Fax・mail とも法人に同じ

〒790-0047 松山市余戸南6丁目3番26号
多機能型事業所あゆみ
 生活介護事業所あゆみ
 就労継続支援B型事業所あゆみ
 あゆみ学園指定相談支援事業所
 ayumi-s@ksn.biglobe.ne.jp
 TEL 089-974-5141 Fax 089-907-6100